

## 朝読書におすすめできないかも…。でも読書が苦手でも楽しめる本かもしれない

笑いすぎてごめんなさい。図書委員の「静かに！」の声が飛んできそう。朝からエネルギー消費。しいーんとした朝読書の中、たぶんその場に不向きな本です。あえて挑戦しようとするキミ、責任は負いません。

言わずと知れた「ちびまるこ」原作エッセイ。20年以上前の発刊だけど古さを感じさせない。なにげない日常に潜む笑いのツボ。あるあるネタにうなずきながら涙目。朝から「痔の疑いのある尻」もないもんだが、読書が苦手なあなた、苦痛の時間がパラダイスになるかも。 さくらももこ/著 集英社

『もものかんづめ』 『さるのこしかけ』

東野圭吾の作品はよく借りられるけど、このシリーズは動いていません。面白いのに～！ ブラックな笑い満載で、朝読の静けさには不向きです。短編だからどこから読んでも大丈夫。一話読むと止まらなくなる。ハマって授業中こっそり読むではいけませんよ。

かいしょう  
『怪笑小説』  
東野圭吾/著  
集英社

腿（もも）でやるのになぜ「<sup>ひざまくら</sup>膝枕」？ 草がなくても「草野球」。日本語の素朴な疑問を大調査。朝読書でカシコクなれる本。

『走らないのになぜ「ご馳走」？』

NHK アナウンス室編 新潮社

## 朝読書におすすめの本 ～正統派の短編～

『ボッコちゃん』 星新一/著 新潮

今や小学生も読む星新一ショートショート。何といっても、これは自選短編集。著者の思い入れを感じる。

『つめたいよるに』 江國香織/著 理論社

シリーズ名は「メルヘン共和国」。愛した飼い犬の死に打ちひしがれる主人公の前に現れた少年は何者？「デューク」が好きだ～。

『さがしもの』 角田光代/著 新潮社

「本」にまつわる9つの物語。

『文豪たちが書いた怖い名作短編集』

彩国社

やっぱり怖いのは「夢十夜」。(教科書掲載)こんな夢を見た、で始まる恐ろしい夢。背中におぶさる子どもの姿が怖すぎる。

『お茶が運ばれてくるまでに』

『夜が運ばれてくるまでに』

『答えが運ばれてくるまでに』

『キノの旅』のコンビが描き下ろした小さな絵本。詩集のようだし哲学書のようなでもあるが、それは読んだ人が判断すればよいこと。イラストが美しい。  
時雨沢 恵一/文 黒星紅白/絵 メディアワークス

『まなの本棚』 芦田愛菜/著 小学館

そもそも、何を讀んだらいいのか分からない人へ

天才子役まなちゃんも22歳。いろいろ読んでいるんだなあ。